

木知原の今昔!

56号: 25・2・7



👉 吊り橋 設計図 発見!!

♪ 山の吊り橋、どなたが通る♪

📌 **なんと!!** 木知原と下長瀬間の吊り橋の設計図が見つかった👏。

📌 吊り橋は大正10年に架けられ昭和22年に取り壊されていると思う。

📌 木知原側には鳥居の石積が当時のままの姿で残っている。

(背丈を超えるササで近づきにくいに興味ある方は是非お出かけを)

渡り賃・嫁入り道具にはご祝儀が...

📌 吊り橋も渡船場と同じく渡り賃が必要であった。林茂氏の話によると「人は一銭・牛馬は二銭」「嫁入りダンスや長持は“何かとちょっかいを出しご祝儀相場を高く吹きかけられた“勿論百も承知の慣習”そうであったからなごやかな時代であったのでしょうか。愉快的『駆け引き会話』が聞かれた?

📌 参考=名知元朔氏著書「木知原百年史」の「貨幣」編に、

「大正初期、十銭もらって西の根尾川の渡船場で往復二銭取られ、お賽銭に一銭投げ、残り七銭でサーカスを見たりおやつを食べたりして遊んだ」とある。



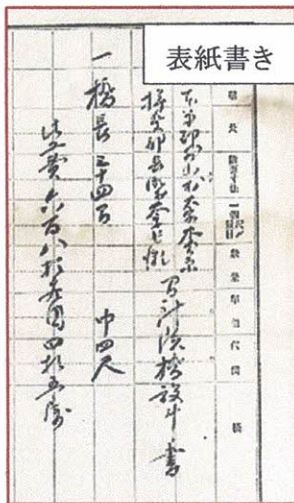
鳥居の石積



鳥居の柱穴

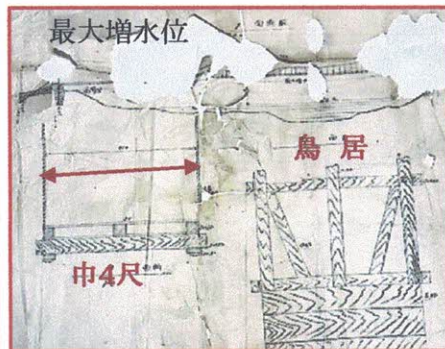
吊橋設計図 一部抜粋

📌 大正10年頃の一円は≒現在の1000~1500円・一銭≒約15円
人夫賃が現在比較で格安に思うが当時はそれで生活できたと言う事



大字木知原
大字長瀬
間針陸橋設計書
一橋長三十四間 巾四尺
御工費 六百八拾参圓四拾五銭

《人夫賃》	
大工	貳圓五十銭
人夫	壹圓八十銭
石工	参圓



😊 木知原の渡河と世情

📌 木知原の歴史は根尾川を抜きには語れない。

📌 夢かかった吊橋であったが、村の暮らし(経済)に及ぼした影響は予想もできなかったと思う。(前「マンガン号」の通り)

📌 長瀬村も200年以上続いた渡船業廃止で木知原以上の痛手となった。谷汲村史に「明治10年・赤石渡船場の開業で客が減少した下長瀬村の船頭が管瀬川の橋を壊した」とある。吊り橋はそれ以上!

📌 旅人は素通りで御休み處や出店は開店休業、他郷からの出張店は引き揚げるなど、村の活気が一気に消えたことは想像できる。

📌 私も御開帳・サーカスに吊り橋を渡った記憶があり懐かしく思い出している。戦後の開帳時で渡り賃は無かった。(畑が吊橋脇に有)

渡河の歴史

- 📌 江戸時代(1681)
 - ・上岩崎に**最初の渡船場**
 - 📌 明治8年(1875)
 - ・下岩藤に**2つ目の渡船場**
 - 📌 明治10年(1877)
 - ・黒藤に**3つ目の渡船場**
 - 📌 明治43年(1910)
 - ・黒藤に**仮設橋**が架かる
(現:万代橋)
 - 📌 大正10年(1921)
 - ・下岩藤に**吊り橋**が架かる
- 📌 吊り橋や万代橋が架かれれば渡船場はその役割を終えたことでしょう。